

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 31日

事業所名 Sun Kids

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12		活動内容に合わせて配置換えやスペースを使い分けている	
	2	職員の配置数は適切である	12			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	2	壁の仕切りやマットで空間分けを行っている	独歩可能な子どもに対して転倒時の怪我予防で緩衝材マットを使用している。マットの段差があり注意必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12		当日の気候と合わせて活動のや休憩、リラックス等の空間を使い分けている/イベントごとに壁飾りをかえている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12		当日、後日その場で確認して共有している。全員に周知する	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12		保育園や家族、地域交流など前年度コロナ禍でできていなかったことや家族の意向により改善している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12		事業所として、自己評価及び、改善の内容を公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		12	今後検討していく	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12		内部研修、外部研修に積極的に参加している	
適切な支援の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12		要望や課題を話し合い支援計画を作成している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	1	発達段階の確認としてポータブルプログラム等を参考にしている	発達状況に合わせて検討し、活用していく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12		個々に応じた支援内容の記載を行っている。利用児に合わせて要望を基に計画を立案している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12		支援計画を基に行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	12		保育士や児童指導員を中心に他職種の見解を出し合いチームで行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12		活動の工夫や内容を考慮している。季節に合わせたプログラムも行っている	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた	
提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	12		個別と集団での活動やリハビリ等を行っている	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12		朝のカンファレンスで行われる	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	3	支援開始前、終了後に必ず打合せ、振り返り等を共有している	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12		日々の支援の記録を取り、改善につなげている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12		6か月以内毎に見直しを行っている	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12		日々、その子供に関わっている者が参加している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12		療育センターや役所と連携して必要時情報提供を行っている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12		地域の保健、医療、障害福祉保育、教育等と連携している	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	12		状態や医療的ケアについて主治医から指示をもらい必要時確認や報告を行っている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12		療育センターと支援等、情報共有を行っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12		特別支援学校入学前や、学校の支援内容活動方法等情報共有している	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12		研修や地域交流で情報共有をおこなっている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	12		近くの保育園の子供たちと公園で一緒に遊ぶ機会を設けている	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	4	近くの公民館でのイベント等に参加	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	3	日頃から保護者と情報共有を行っている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9	3	家族からの相談内容に合わせて必要時行っている	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12		契約時に行っている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12		児童発達支援計画に沿って説明を行い、同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12		契約時に行っている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12		年2回家族交流会を行い支援している	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12		相談や申し入れ等、迅速に対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12		定期的なお便りの発行、行事内容等を発信している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	12		必要時家族に同意を得て関連機関に情報提供している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12		声掛けや絵カードを用いて意思の確認を行っている	
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	3	地域交流会やイベントを開催したり、地域のイベントにも参加している	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12	3	マニュアルをもとに1～2か月に1回訓練を行っている	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12		消防・警察に訪問してもらい、災害や防犯の指導を受けている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12		主治医に指示書を依頼し、家族にも確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12		摂食によるアレルギーの対応は現在はないが、同知して摂食によるアレルギーに注意している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12		法人内で共有し、必要時カンファレンスを行っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12		毎年研修や勉強会を行っている	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	3	身体拘束を行う場面がなく支援計画に盛り込めないが適宜必要な場合は子どもや保護者に説明し計画書に記載していく	カニューレ等自己抜去の恐れがある場合、必要時行っていく	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。